



高橋隆夫さん (権現堂)

40年以上も続く伝統行事ですから、今後も続けていきたいです。地域の人から学ぶことは、教科書から学ぶものとは違うと思います。さまざまな体験を通して大変さや喜びなどを感じてもらい、子どもたちの人間力の向上や、心の成長につながればと考えています。

まこもの馬づくりも七夕集会も、地域の人たちと触れ合えるいい機会でもあり、この地域に長く伝わる伝統行事です。

薄れゆく伝統ですが、絶えることが無いように大切に続けていきたいと考えています。



根岸英範さん (木立)



内藤璃乃さん (児童会長)

まこもの馬をみんなと一緒に作れて、楽しかったです！まこもの馬を作っているとき、地域のみなさんのやさしさを感じることができました。権現堂川小学校の伝統行事でもあるので、これからも続いてほしいです。

★ 伝統行事をつなぐために ★



7月1日(月)には、まこもの馬などが飾り付けられた体育館に地域のみなさんを招待し、七夕集会が行われました。

6月18日(火)権現堂川地域のみなさんが先生となり、権現堂川小学校の5・6年生は、世界に1つだけの素敵なおまこもの馬を作りました。



七夕集会では地域のみなさんを招待し、まこもの馬づくりのお礼や、願い事が披露されました。



6月10日(月)に、東中学校協の水路でまこものを刈り、体育館協で選別と陰干しをしました。



そして短冊を付けた竹が高々と押し立てられると、体育館には「たなばたさま」の歌声が響き渡りました。



※東中学校協の水路は、地域のみなさんの理解と協力を得ているため、まこもの群生に適しています。

伝承されるロマンチックな伝統行事 まこもの馬づくり



権現堂川地区には古くから受け継がれている伝統行事があります。それは「まこもの馬づくり」です。

農耕儀礼や火難除けとのいわれもありますが…

短冊をつける竹に、短い竹を一本横に渡し、その左右に雄雌の馬を向かい合わせで結びつける。

そして、天まで届けとばかりに高々と押し立てることで、馬に乗った織姫と彦星は夜空で再会できる。というようにロマンチックな言い伝えもあるようです。

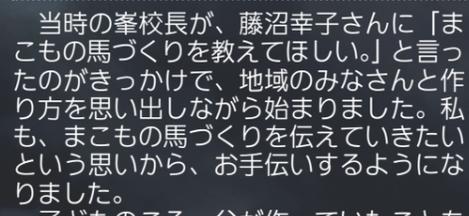
★ まこもの馬づくりにかける思い ★



植竹惣吉さん (上吉羽)

権現堂川小学校 22代校長 峯喜代子先生(昭和49年4月～55年3月)が歴史に詳しい先生ということもあり、そのころからまこもの馬づくりが始まりました。

まこものを刈ったり、干したりとお手伝いしてきましたが、先輩方がやっていたことなので、伝統を引き継いでいきたいという思いです。



市村和子さん (神明内)

当時の峯校長が、藤沼幸子さんに「まこもの馬づくりを教えてください。」と言ったのがきっかけで、地域のみなさんと作り方を思い出しながら始まりました。私も、まこもの馬づくりを伝えていきたいという思いから、お手伝いするようになりました。

子どものころ、父が作っていたことを覚えています。



川島邦夫さん (上吉羽)

同級生2人(植竹さん・市村さん)がやっていたので、みなさんと一緒に協力して、伝統行事を続けたいという思いでかかりました。

学校の先生も大変ですけど、地域の人たちが一生懸命にやっていますので、体が続く限り協力し、この伝統行事をつなげていきたいという思いです。